

(補足資料：24.6.6「教皇ヨハネ・パウロ二世 使徒的書簡:新千年期の初めに」)

第二章 観想すべきみ顔

福音のあかし

17 キリストのみ顔の観想は、聖書が彼について語るどころから靈感を受けることにほかなりません。聖書は、最初から最後までキリストの秘儀の啓示で貫かれています。旧約聖書には暗示的に、新約聖書には明示的に余すところなく啓示されています。聖ヒエロニムスが「聖書を知らないことは、キリストを知らないことである」と言っている通りです。聖書にしっかりと根を下ろしたうえで、聖霊の働きに自らを開くのです(ヨハネ 15:26 参照)。

聖霊は、聖書の原点であるとともに、使徒たちのあかしにおいても働いたのです(ヨハネ 15:27 参照)。

彼らは、命のことばであるキリストの生きた体験をしました。キリストを自分たちの目で見、耳で聞き、手で触れた(一ヨハネ 1:1 参照)のです。

使徒たちを通してわたしたちに伝えられたものは、確かな史料によって裏付けられた信仰のビジョンを成します。

「わがテレーズ 愛の成長」マリー・エウジェンヌ

B 信頼と霊における貧しさ

無限の愛の招きにどのように応え、その働きにどのように身をゆだねるのだろうか。

- ・・・神の愛は、単なる一時的な信仰の行為によっては満たされず、私たちが神の働きかけに常に開かれていることを要求する。この心構えこそ、信頼、愛に満ちた信仰、さらに、愛する神に、愛をこめて自己を完全に渡す委託である。

従って、愛のこもった信頼と委託が、テレーズの霊性の根本的特性となる。

- ・・・幼いイエスのテレーズはためらうことなく答えた。

「それは、霊的幼子の道、信頼とまったき委託の道です。」

・・・

「イエス様は、この神聖なかまどに行くただ一つの道を、快く示してくださいました。その道とは、御父の腕の中に、何の恐れもなくまどろむ幼子の委託です。」

関連箇所：マタイ 15:28、マルコ 5:25-34、ヘブライ 11:6。